

# 最適平面配置法について-I\*

青 山 博 次 郎

(1969 年 5 月 受付)

## On the Optimal Layout-I

Hirojiro Aoyama

We meet often the problems how to get the optimal layout in poster, home kitchen, city planning, and so on. In those cases we have to get the appropriate objective functions for the problems, that is, the indices of aesthetic value in poster, convenience in home kitchen, and facilities and amenity in city planning. In this paper we discussed the layout problem of newspaper as an example of optimal layout on a plane.

First, we obtained the criterion index which is given by the sum of products of item weights and their intensities contained in each news.

The mean ranking of 13 news which was obtained by judges' intuitive orderings was quite similar to the one which was calculated by criterion index, and rank correlation coefficient was 0.940.

Second, we took five social column pages (say A, B, C, D, and E) and made from each one six different pages (say 1 to 6 types) which were made by interchange of three major topics in each page.

Then we made an experiment in which we showed each subject those five pages of different types and took moving picture of eye-movements with the eye-camera. In the meanwhile we interviewed the subjects asking them to recall how their eyes moved.

The results of this experiment will be shown in ensuing paper.

The Institute of Statistical Mathematics.

## §1 は じ め に

平面上にいくつかのものを配置する方法は、いわゆるレイアウトといわれるものの1種であろう。美的感覚からいって一ばん良い並べ方だとか、便利さの点からいって一ばんうまい配置だとか、それぞれの目的に応じて効果を考えてレイアウトが行われる。ポスターなら美的感覚を与え、台所の流し台・戸棚などの配置ならば、使用の便利さの点を考えて設計される。

この研究では平面上でも簡単な図形である長方形の部分へ、いくつかの多角形（ただし頂点では直角に辺が交わる）を配置する方法について考究し、その具体例として新聞記事を取りあげることとした。すなわち新聞記事の見出しの配置を、新聞整理記者の意図、読者の受取り方の2つの面から考えて最適なものにする方法について考えていくことにする。

## §2 新聞見出しの位置

現在発行されている新聞について、あらゆる新聞のすべての記事について、見出しの位置がどのようになっているか研究することは到底一朝一夕にできるものではない。ここでは調査の便宜上から多数の読者が見ている社会面記事に限定し、昭和42年6月1日から7月1日まで1ヶ月分の読売新聞（朝刊）の見出しと、写真の配置について調査を行った。

見出しには横組みのものと縦組みのものとがあり、またその大きさも6段から1段まで、行

\* この研究は昭和43、44年度文部省科学研究費補助金によって行ったものの一部である。

数も1乃至3行に亘るというように種々のものがある。

われわれの狙いは、読者の眼に見出しがどう映るかを調べたいのであるが、上述のような見出しのとりえ方ではなく、見出しの面積を用いることにした。そのために1面の横を38区分、縦を15区分(段)し、その小長方形の1区分を単位にとり、1つの見出しの占める面積を計算し、紙面の各単位毎にこの部分を蔽う平均見出し面積を求めてみた。

トップ記事については、横見出しと縦見出しの両者を合計したものを見出し面積とし、「ある単位Aの平均見出し面積」を「単位Aを蔽った見出しの面積の1ヶ月間の総和」÷「単位Aを蔽った見出しの1ヶ月間の総件数」で示すと、図1のような結果が得られた。

写真についても、見出し面積の代りに写真面積を用いて同様の計算をしたものが図2である。

これによって現在発行されている新聞(もちろん他社の社会面記事では異なるかもしれないが)ではどの部分に大きい見出しや、大きい写真が配置されているかが分るが、見出しでは右上の部分が一ぱん大きく(トップ記事は右上で、横見出しを伴い、縦見出しは大体6段見出し)、4, 5段下った真中あたりがまた少し大きく(5段、4段見出しがくる)、他は小さい。

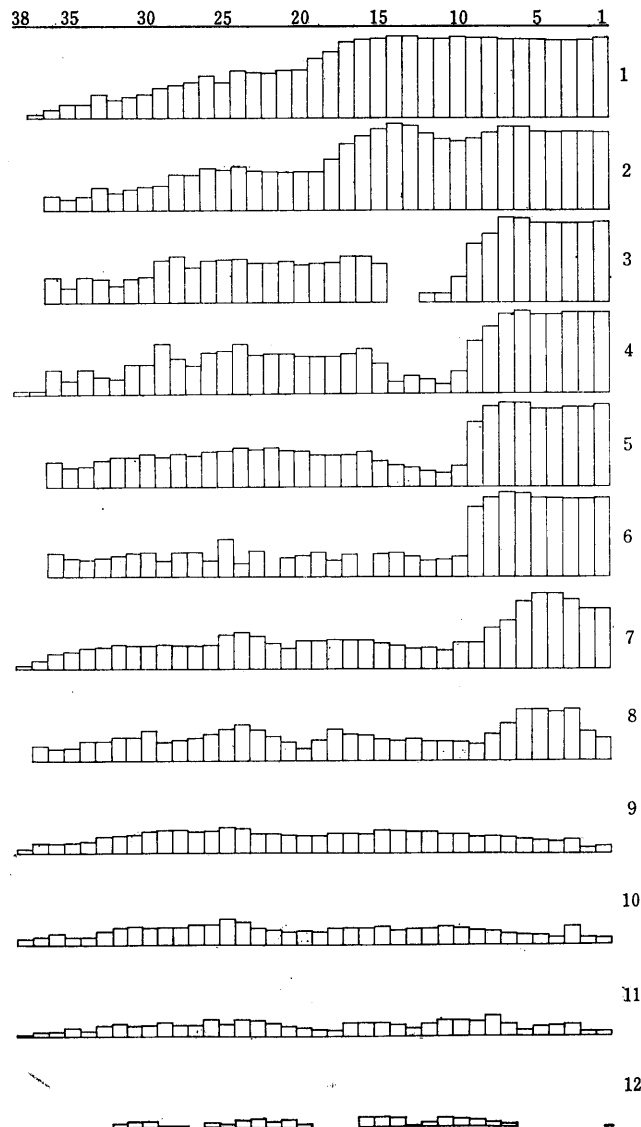


図1 見出し

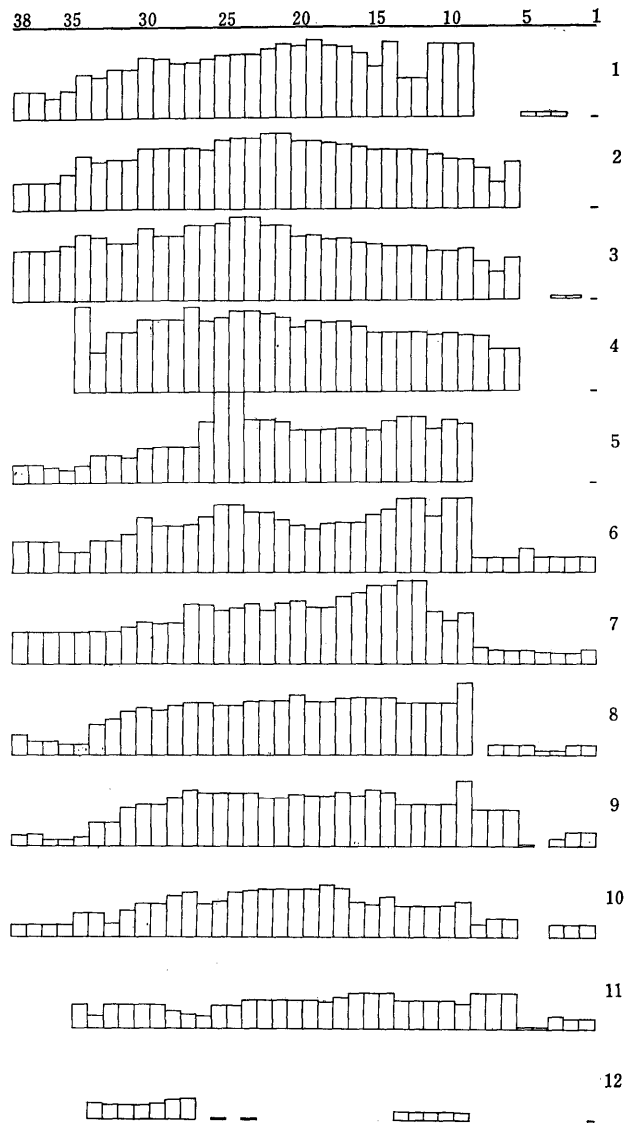


図2 写真

写真では大体中央部で, 6, 7段目位までが大きい。

この結果は, 記事の重要なものから順に図3のような配置が行われていることを裏書きしているようである。(注1)

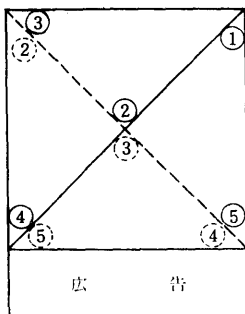


図 3

### §3 新聞記事の選択基準

新聞記事(社会面)が紙面に掲載されるまでには, 社会部記者が取材してきて原稿を作り, これをデスクに提稿する。デスクはこの記事の採否をきめ, 採択したものを整理部へまわす。整理部ではこれに適当な見出しをつけ, 重要なものから順に読者の眼をひきつけるよう適当なところに配置するのである。われわれは重要な記事ほどよく目につく所に配置するのがよいと考えているが,

(注1) 日本新聞協会：新聞整理の研究。昭和41年1月

それに先立って記事の重要度を判定する基準が実際に存在するものであるかどうかを問題にしたのである。

社会面についてだけ考えてみても、紙面の作り方は十人十色といわれ、人によって記事の重要性の判断も異なり、配達の方法も違ってくる。もし全くこのような重要度を判定する基準がないのなら、新聞記事（見出し）の配置も人力によって行わねばならず、電子計算機を利用して機械化していく訳にはいかないが、果して実際にそうなのであろうか。

前節で触れたように、嘗て日本新聞協会によって新聞整理の研究会が作られ、その成果が「新聞整理の研究」という書物に報告されている。この時も価値基準については一応の結果が得られているが完全なものではない。

われわれの研究の主目的はレイアウトの方法論にあつて、このような根本的な問題について十分な検討時間をかけることはできなかった。それで読売新聞社整理部の新田和男、高島和也、堀越一彦各氏の協力を得て、この研究報告書の中から適当なものをえらび、あるいは修正して次の14項目を価値項目として選出した。

1. ざん新, 2. 意 外, 3. 生 命, 4. 生 活, 5. 季 節, 6. 大衆性, 7. 社会性,
8. 現代性, 9. 進展性, 10. 記録性, 11. 歴史性, 12. 国際性, 13. 地域性, 14. 時間性.

これに適当な定義と、事例をつけて（付録参照）、整理部の社会面関係記者に rating をしてもらった。

全体の合計点を1400とし、重要度に従ってこれを14項目にバラまくようにしたのである。従つてもし各項目に優劣はないというので同じ重みをつけるなら、各項目100としてもらうことになる。

またこれらの価値項目の各々についても、各記事に含まれる程度に種々の段階があるが、一対比較法のようなやり方では一般的に優劣の判定が困難であるため、やむを得ず具体例を用いて判定を行うことにした。そのため各項目毎にその段階がおよそ強、中、弱の3段階に該当すると考えられる事例をあげ、合計点が100になるような rating をしてもらうことにした。

このようにして作成された調査票は付録の調査票Aの通りである。

一方ここでとりあげた項目の何れかを含むような13のニュース・フラッシュ（以下記事と略称）をつくり、同じ日の社会面の記事としてとりあげる場合、重要なものから順番をつけ、同時に各記事毎に前述の14項目の各々について、強・中・弱・非該当のどの段階に属するかを判定してもらった。調査票は付録の調査票Bの通りである。

以上の調査はすべて社会面関係の整理記者21名（以下AB組と命名する）について行ったが、更にこの13の記事について、順番だけを社会面以外相当の整理記者37名（以下C組と名付ける）に記入してもらった。この人々は社会面の整理は未経験だが、政治面や経済面など他の紙面の整理経験者である。

調査の結果分つたことは次の通りである。

1. AB組について各項目の rating の結果得られた重みは、その分布表の中央値、平均値、直接生まのまゝの数値を用いたときの中央値のどれを用いるかによって若干異なるが、次の表1のようになった。便宜上合計点は1000にしてある。

(i), (ii), (iii) の間に若干の差はあるが、ざん新、生命、社会性、生活、意外、国際性、大

表 1

重	み	ざん 新	意外	生命	生活	季節	大衆 性	社会 性	現代 性	進展 性	記録 性	歴史 性	国際 性	地域 性	時間 性	計
(i) 分布表 Me		149	77	139	79	39	66	92	55	49	39	33	67	49	67	1000
(ii) 平均値		164	72	163	81	35	58	107	62	39	31	27	58	42	61	1000
(iii) 直接 Me		156	77	155	77	39	77	77	58	39	39	27	70	39	70	1000
1400 点の と きのレンジ		10～ 500	10～ 250	100 ～ 500	50～ 200	10～ 100	10～ 200	20～ 400	10～ 400	5～ 100	5～ 100	50～ 100	50～ 150	5～ 100	10～ 190	—

衆性、時間性、現代性、進展性、地域性、季節、記録性、歴史性という順になっているものと考えられる。

2. AB組について、各項目の強・中・弱の記事例についての段階の rating 結果は次の表 2 のようになっている（中央値を示す）。

表 2

項目 段階	ざん新	意 外	生 命	生 活	季 節	大衆性	社会性	現代性	進展性	記録性	歴史性	国際性	地域性	時間性
強 (イ)	65	80	60	75	38	52	63	67	74	60	52	90	80	80
中 (ロ)	33	20	26	25	28	47	33	35	26	27	31	9	19	20
弱 (ハ)	15	13	10	13	38	14	15	13	10	15	30	6	10	7

平均値をとった結果は第3表のようになる。

表 3

項目 段階	ざん新	意 外	生 命	生 活	季 節	大衆性	社会性	現代性	進展性	記録性	歴史性	国際性	地域性	時間性
強 (イ)	59	73	67	69	43	48	60	61	69	58	49	83	72	73
中 (ロ)	27	16	24	22	23	42	27	30	23	27	25	11	18	21
弱 (ハ)	14	11	9	9	34	10	13	9	8	15	26	6	10	6

これらの結果をみると、強・中・弱が等間隔に並んでいるとは思われないが、用いた事例によって変動する傾向を示している。

3. 記事の評価。 上述の 1, 2 で得られた重み、段階点を用いて、 $N$  人の判断者が各記事を

表 4 AB組 (社会面関係者)

記事 順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	計
1			2			2		9	7	1				21
2			3			6		2	5			1	4	21
3		1	7			2	3		3	1			4	21
4		1	3			4	3	1	1	3			5	21
5			2	1	1	1	7	1	4	1			3	21
6	2	3	2		2	2	1	5	1	2			1	21
7		3	1	2	1	3	3			3	2	2	1	21
8	1	3			4	1	3			3	2	2	2	21
9	1	2		2	4		1	1		1	3	5	1	21
10	1	3	1	2	1			2		2	6	3		21
11	3	3		4	1					1	6	3		21
12	4	2		5	5					1	1	3		21
13	9			5	2					2	1	2		21
計	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	
平均順位	13	8	2	12	9	4	6	3	1	7	11	10	5	

記事： 1. 心中                      2. 暴力教師                      3. 寒波                      4. 練習船  
          5. 南ア炭鉱事故           6. グループサウンズ           7. 谷川事故               8. 自衛隊戦車  
          9. 値上げ                   10. 火事                        11. フーテン族手入       12. 横浜人口  
          13. ヒマラヤ登頂

表 5 C組 (一般)

記事 順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	計
1			4			2	1	8	20				2	37
2			4			4	4	10	10	1			4	37
3		1	5			4	4	6	3	6		1	7	37
4	3	0.5	7	1	4	4	5	2.5	4			1	5	37
5	3	2.5	3	2		5	4	1.5		5	2	3	6	37
6	1	5	7	1	5	10	3	3			1		1	37
7	3	2	4			6	5	1		2	5	5	4	37
8	4	5	2	3	1		8	3		2	5	2	2	37
9	3	3		5	8					9	5	3	1	37
10	1	3	1	4	8	2	3				7	6	2	37
11	3	6		6	4					6	4	4	2	37
12	6	4		5	3			2		5	3	10	1	37
13	10	5		10	4					1	5	2		37
計	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	
平均順位	12	8	3	13	9	4	6	2	1	7	11	10	5	

表 6 A B組の各記事段階点平均 (×21)

項 目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
ざ ん	3	11	19	8	14	23	9	26	8	7	8	10	40
意 生	12	11	18	6	11	36	10	22	6	12	5	8	13
命 活	36	14	5	0	49	39	50	4	0	13	0	3	8
生 節	3	9	48	2	6	5	3	19	59	13	9	20	2
季 性	0	0	57	0	0	0	35	0	7	15	1	0	4
大 衆	25	21	32	7	8	50	19	18	46	22	26	16	20
社 会	6	45	17	6	14	29	23	54	53	12	24	23	7
現 代	8	24	5	11	3	46	23	29	31	4	43	17	17
進 展	5	11	15	13	17	27	9	33	29	31	9	9	8
記 録	0	6	24	21	8	1	6	9	15	3	6	41	39
歴 史	0	1	3	42	1	0	0	6	0	0	2	9	16
国 際	0	0	0	30	32	0	0	10	0	0	1	4	41
地 域	19	17	41	6	6	21	24	5	32	40	29	38	8
時 間	7	4	17	4	7	10	6	4	4	49	20	2	5
合 成 点	10,899	13,896	19,796	8,945	16,284	23,574	17,551	18,725	20,047	15,041	12,185	12,811	17,201
順 位	12	9	3	13	7	1	5	4	2	8	11	10	6

判定し、項目  $i$  (重み  $w_i$ ) については段階  $j$  (点数  $a_{ij}$ ) と判断した人数を  $f_{ij}$  とするとき、その記事の合成点を

$$\frac{1}{N} \sum_{i=1}^{14} w_i \sum_{j=1}^3 a_{ij} f_{ij}$$

によって表わすことにする。

$a_{ij}$  としては、 $i$  の如何に関せず  $a_{i1}=3$  (強),  $a_{i2}=2$  (中),  $a_{i3}=1$  (弱),  $a_{i4}=0$  (非該当)

とおく方法を ( $\alpha$  式) と名付け, 2. でのべた 各項目毎に異なる段階点から  $a_{11}=40/7$ ,  $a_{12}=20/7$ ,  $a_{13}=10/7$ ,  $a_{14}=0$  (表 2 より (i): (ii): (iii): (iv)  $=4:2:1$ ) などのように, 段階点の合計が 10 になるように定めたものを ( $\beta$  式) と名付ける. このようにして前述の合成点を作り, その値の大きいものから順位をつけたものと, 直接に記事の順位をつけたものとを比較してみよう.

まず AB 組が直接順位をつけた結果と, C 組が直接順位をつけた結果は, それぞれ表 4, 5 のようになっている.

両組の順位相関係数  $\rho=0.989$  で, 非常によく一致しているといえる (2, 3 位と, 12, 13 位が入れ換っているだけ).

これに対して AB 組で, 重み (i), 段階点 ( $\alpha$  式) のものでは表 7 のようになり, #6. グループ・サウンズについての評価が異っている点を除くと, よい一致を示す.

表 7 記事の順位

記 事	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
AB 組 重み (i), ( $\alpha$ 式)	12	9	3	13	7	1	5	4	2	8	11	10	6
" 直接順位	13	8	2	12	9	4	6	3	1	7	11	10	5
C 組 直接順位	12	8	3	13	9	4	6	2	1	7	11	10	5

順位相関係数をみると

$$\rho (\text{合成点, AB 組順位}) = 0.940$$

$$\rho (\text{合成点, C 組順位}) = 0.940$$

となり, 同じ値を示す.

#6. グループ・サウンズの記事は, 大衆性, 現代性, 意外, 生命についての段階点が高く, #9. 値上げの記事は生活, 大衆性, 社会性について段階点が高いが, 合成点では前者が第 1 位となったのは, 評価項目には採用されていない「品格」とでもいうような点で, 判断者のつけた直接順位では第 1 位になり得なかったようである. もちろんこれも平均的な順位でみたものであって, 各判断者のつけた順位は #6. では第 1 位から第 8 位に亘り, #9. では第 1 位から第 6 位に亘っている.

判断者の経験年数別にみた各記事の平均順位は表 8 のようである. AB 組の各経験年数グループによる順位づけの一致係数  $W=0.901$  であり, C 組の一致係数は  $W=0.890$  で, 殆んど経験年数による差はないようである.

表 8. 経験年数, 組別の記事順位

記 事		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
A B組	0～年	13	7	4	10	8	2	6	3	1	9	12	11	5
	5～	13	9	1	12	11	3	6	5	2	7	10	8	4
	10～20	9	8	5	13	10	3	6	1	2	7	11	12	4
	全 体	13	8	2	12	9	4	6	3	1	7	11	10	5
C 組	0～年	10	8	3	12	9	5	4	2	1	7	11	13	6
	5～	9.5	13	4	11	7	5	6	2	1	9.5	12	8	3
	10～20	12	8	3	13	11	5	6	2	1	7	9	10	4
	全 体	12	8	3	13	9	4	6	2	1	7	11	10	5

次に上と同様にして種々の項目の重みや, 段階点を用いて合成点を求め, 直接直観につけた順位との順位相関を計算した結果は次表 9 の通りである. 何れの方法でも社会面以外担当の C 組との順位相関の方が少し高くなっているのは興味深い.

この結果項目の重みは (i), 段階点は ( $\alpha$  式) の場合が一ぱんよいことが分ったが, #6. グル

表 9

項目の重み	段 階 点	$\rho$ (合成点, AB組)	$\rho$ (合成点, C組)	備 考
(i)	$\alpha$ 式	.940	.940	
(ii)	"	.907	.918	** 経験年数10年以上のものについてのもの
(iii)	"	.934	.929	
(i)	$\beta$ 式	.830	.841	
(i)	$\alpha$ 式**	.852	.875	* 経験年数10年以上のものについてのもの
(i)*	"	.896	.912	
(iii)	$\beta$ 式	.890	.907	

$$a_{i3} = 100 - a_{i1} - a_{i2}$$

ープ・サウンズの記事はどの場合でも第1位になる点は問題が残っている。

一方 AB 組の各判断者について、その人がつけた項目の重みを用い、( $\alpha$  式)の段階点を用いて個人毎の合成点を求め、これによって記事の順位をつけたものと、各人が直接直観的につけた順位との順位相関係数を求めてみると、たゞ1人だけが  $-0.198$  で、他は  $0.302 \sim 0.934$  の範囲に亘っており (表 10. 参照)、平均値は  $0.646$  ( $-0.198$  を除くと平均値は  $0.688$ ) となっている。

この結果から各人の価値判断について、直観的につけた順位と、分析的にみて項目の評価を用いてつけた順位との間にあまり関係のない人が半数ぐらい見受けられた。

表 10 経験年数別順位相関係数の分布

経験年数 \ $\rho$	$-0.2 \sim -0.1$	..	$0.3 \sim$	$0.4 \sim$	$0.5 \sim$	$0.6 \sim$	$0.7 \sim$	$0.8 \sim$	$0.9 \sim$	計
1~ 年	1	..	1	1	1		1	2	1	8
5~		..		1		1	2		2	6
10~20					3	1	1	2		7
計	1	..	1	2	4	2	4	4	3	21

#### §4 実験用紙面の作成

実際に新聞紙面を読者が眺めるとき、どのような順に記事 (見出し) を見ていくのであろうか。従来広告注目率については、前日の新聞を見せて、どの広告を見た覚えがあるかと尋ねてその注目率を推定する調査が行われているが、一般の記事についてはそのような調査は殆んど見当らないようである。ましてやこのような記事をみた順序については尚更のことである。

またこのような広告注目率は記憶再生法によるため信頼性が低い欠点がある。実際に前日その広告を見ていなくてもその時の感じでどのようにでも答えられるからである。

そこでわれわれは紙面を実際に見せて、諸者の視線がどのように記事の見出しを追うかを実験してみようと考え、アイ・カメラを利用することにした。しかしこれにも後述のように欠点もあるので、同時に紙面をみせて記憶再生法で眺めた順序を答えさせる調査も併用することにした。

先ず材料として紙面作成を考えなければならない。このためには、現在用いられている紙面を離れて全く自由な立場からデザインし、レイアウトを行うこともできるが (注2)、通常の紙面作成によるものであっても、読者は見出しを見ると同時に記事内容も大体読みとり、そうして読みたいものから順に読み出すのが多く (もちろん時間的余裕のある人は目についた順に片端から好きなものを読みつけるが)、記憶再生法で答える「見出しをみた順番」は必ずしも実際に見出しを視線が追った順番とは一致しないのではないかという懸念があった。

そこで1つの紙面で、トップ記事、第2, 3番目の記事がうまく入れ換えられるような記事

(注2) 1967年度日宣美展：新聞紙面構成への提案



の載っている新聞をえらび、1つの紙面からこの3つの記事を入れ換えてできる6通り(3!通り)の紙面を作り、それに応じて適切な見出しを整理関係記者に作成してもらった。

とり上げた異なる社会面記事は5種類(5日分)で、これをそれぞれA,B,C,D,Eで表わし、もとの紙面を1型、トップ記事はそのままにして第2,第3番目の記事を入れ換えたものを2型とした。次に第2番目の記事がトップになるようにして他を入れかえるというふうにして次のような6通りの紙面を作成した。(Aの1~6型の写真は図4~9参照)



図 4



図 5



図 6



図 7



図 8



図 9

表 11-1 記事の配置表

Aの型式	1	2	3	4	5	6
記事						
砂の下敷	1	1	3	2	3	3
成田空港	2	3	1	1	2	2
羽田事件	3	2	2	3	1	1

表 11-2 記事の配置表

Bの型式	1	2	3	4	5	6
記事						
蒙古症	1	1	2	3	3	2
窃盗団	2	3	3	2	1	1
モグリ団地	3	2	1	1	2	3

表 11-3 記事の配置表

Cの型式	1	2	3	4	5	6
記事						
牛乳	1	1	3	2	3	2
心臓	2	3	2	3	1	1
交通	3	2	1	1	2	3

表 11-4 記事の配置

Dの型式	1	2	3	4	5	6
記事						
夜学	1	1	2	3	3	2
脱税	2	3	1	1	2	3
気象	3	2	3	2	1	1

表 11-5 記事の配置表

Eの型式	1	2	3	4	5	6
記事						
無尽	1	1	2	3	3	2
子なし夫婦	2	3	1	1	2	3
吹雪	3	2	3	2	1	1

もちろんこのように簡単に位置の交換はできないので、他の記事に若干影響の出たものもある。このようにして作成された6通りの紙面を見せた場合に、もし見出しを追う順序が、見出しの位置が変わっていても、もとと同じ記事を見た順になっていれば、読者は記事内容そのものにひかれるものと考えられ、見出しの位置には無関係だといえる。これに反して見出しの位置が変わっても、もとと同じ位置の見出しの順にみていくならば、見出しの位置そのものが読者の見出しを追う順序に関係があるといえる。もちろんここでいう見出しを追う順序は、どの記事をどの順に読むかということとは別問題であり、これは読者の関心がどこにあるかによって異なるからである。

## §5 お わ り に

アイ・カメラによる実験、記憶再生法による調査は現在継続中であって、その実験計画と結果については稿を改めてのべる予定である。

新聞記事評価と紙面作成には読売新聞社整理部長 浅野恭平、湯浅龍太郎、整理部 新田和男、高島和也、堀越一彦 各氏を始め、各部員の方々の御協力を得、またアイ・カメラ実験に

は同社電子計算機室の方々の御協力を得た。ここに深甚の謝意を表するものである。

またこの研究は統計数理研究所 千野貞子、十倉淳子両氏の緊密なる協力によって行われたことを附記し、併せて感謝の意を表します。

統計数理研究所

## 付 表

### 調 査 票 A

統計数理研究所

I. 新聞のフラッシュ・ニュースが入ってきた場合、社会面の記事として掲載するためにその価値評価を行って選択いたします、その時考えられる価値項目はいろいろあるでしょうが、次の14項目をとり上げた場合、それらの重要度はいろいろ考えられるでしょう。

例えばどの項目も等価値なら100点づつ(合計は1400点)にする人もありますし、また生命が一番重要で500点、次はざん新が200点、……季節性は10点(合計は1400点)とする人もありましよう。あなたの考え通りに各項目の重要度に応じて点数を項目に与え、合計は1400点になるようにして下さい。

このときの条件としては

- (1) 社会面に掲載される記事で、ある1日に入手するニュース・フラッシュとします、
- (2) 非常に重要で、第1面など他の面へのハミ出しが考えられる場合でも、ここでは全体をまとめて社会面記事としての評定をして下さい。(ハミ出しがあるときに、社会面へ掲載される部分だけになると、社会面の中の重要性は減少するわけですが、この場合を考えないという意味です)。
- (3) 説明中の事例は、定義を具体的に説明したもので、このようなものが含まれるという意味です。

項 目	定 義	事 例
1. ざん新	新しいもの、珍しいもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月世界旅行第1号</li> <li>・大学運営に初の学生参加</li> </ul>
2. 意 外	変ったもの、予想できなかった突如的なもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都心に温泉わく</li> </ul>
3. 生 命	人命、生と死	<ul style="list-style-type: none"> <li>・百人死ぬ</li> <li>・奇跡の生還</li> </ul>
4. 生 活	衣食住、日常、広い意味での人間性を含む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お酒また値上げ</li> <li>・労働者用に住宅5000戸</li> </ul>
5. 季 節	自然現象、年中行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋晴れ七五三</li> <li>・台風10号それそう</li> </ul>
6. 大衆性	普遍性、一般性、著名度、関心度など幅広く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西武デパート火事で混乱</li> <li>・山本富士子さん宅に賊</li> </ul>
7. 社会性	社会的な拡がりや、影響度、問題意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国会議員の「黒い霧」</li> <li>・お粗末精薄泥対策</li> <li>・解説、識者の意見なども</li> </ul>
8. 現代性	現時点における重要度、流行なども含む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・また交通戦争の悲劇</li> <li>・ヒッピー大あばれ</li> </ul>
9. 進展性	あとをひく継続ニュース、将来への広がりを想定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自供まち逮捕へ</li> </ul>
10. 記録性	数字に意味があるもの、資料として保存に意味があるもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白書、週間レポート</li> <li>・人口1億2千万人突破</li> </ul>
11. 歴史性	歴史的事実、過去に意味があるもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治百年ゆかりの地に記念碑建立</li> </ul>
12. 国際性	世界のニュース、国際的スケール 世界の中の日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒白騒動</li> <li>・パリ今秋のファッション</li> <li>・君原堂々の金メダル</li> </ul>
13. 地域性	距離的な影響度、関心度、生活圏、経済圏などへの配慮(現地版)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北上川に漁禁止令</li> <li>・九州3市が合併</li> </ul>
14. 時間性	ホットニュース、締切り間際の飛び込みもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10むね焼き延焼中</li> <li>・深夜の爆発、死傷多数</li> </ul>

↓ [答]

項 目	点数 (重要度)
1. ざ ん 新	
2. 意 外	
3. 生 命	
4. 生 活	
5. 季 節	
6. 大 衆 性	
7. 社 会 性	
8. 現 代 性	
9. 進 展 性	
10. 記 録 性	
11. 歴 史 性	
12. 国 際 性	
13. 地 域 性	
14. 時 間 性	
計	1,400

II. 前問は14項目についての価値評価ですが、今度は各項目毎に掲げてある強度の違う事例についての評価をして下さい。他の項目との関連などは考える必要はありません。

各項目毎に3つずつの事例(大体強, 中, 弱の段階に当る)をあげてありますが、各項目内で相互の重要度を考えて100点をバラまいて下さい。例えばイ. は50, ロ. は30, ハ. は20(合計は100点)というように、あなたの考え通りに点数をつけて下さい。

[答] ↓

項 目	事 例	点数 (重要度)	計
ざ ん 新	イ. 青森～鹿児島 新幹線 ロ. 奥羽本線の全線電化 ハ. 国鉄新型電車		} 100
意 外	イ. 富士山に噴火の動き ロ. 小笠原に新海底火山 ハ. 硫黄島の隆起続く		} 100
生 命	イ. 列車転覆, 数十人死ぬ ロ. 列車暴走, 五人死に十人ケガ ハ. 列車踏切りで衝突十数人ケガ		} 100
生 活	イ. 国鉄料金大巾値上げ ロ. タクシー新料金 ハ. 第三京浜料金一割アップ		} 100
季 節	イ. 豪雪の中のお正月 ロ. 秋晴れ七五三 ハ. 寒波が来そう		} 100
大 衆 性	イ. 熱海温泉でホテル火事 ロ. デパート出火さわぎ ハ. 山本富士子さん宅ボヤ		} 100
社 会 性	イ. 国会議員が汚職 ロ. 税務署員が査定汚職 ハ. また招待ゴルフ		} 100
現 代 性	イ. 東大で全学封鎖 ロ. 文学部教授を軟禁 ハ. 学生が学内デモ		} 100

[答] ↓

項 目	事 例	点数 (重要度)	計
進 展 性	イ. 大臣の取調べ必至 ロ. 市長召喚へ ハ. 課長に波及か		} 100
記 録 性	イ. 交通事故死暗い新記録 ロ. 交通事故死昨年上回る ハ. 交通事故死昨年並み		} 100
歴 史 性	イ. ガダルカナルに初の遺骨収集団 ロ. 明治百年の記念碑建立 ハ. 徳川時代の医学書発見		} 100
国 際 性	イ. ノーベル平和賞に山田氏 ロ. カンヌ映画祭で特別賞 ハ. バリの日本人モデル		} 100
地 域 性	イ. 横浜で震度4 ロ. 前橋で震度4 ハ. 旭川で震度4 (14 版編集者の時点で)		} 100
時 間 性	イ. 深夜締め切り直前の火事10むね焼き延焼中 ロ. 夕方の火事, 10むね焼いて鎮火 ハ. 昼間の火事 夕刊改造残り		} 100

III. あなたの整理経験年数をお書き下さい

年	月
---	---

## 付 表

## 調 査 票 B

統計数理研究所

- I. ここに13のニュース・フラッシュがあります。これをあなたが最も重要と思ったものに1, その次に2というように、重要と思う順に番号をつけ、各記事の右上の□の中に記入して下さい。記事はとめ金から外してお使いになって結構ですが、最後にはまたとめ金でとめておいて下さい。  
(記事はすべて×日の社会面関係のものです)
- II. 調査票Aであげた14項目について、各記事はどの項目では強度はどれ位か(強, 中, 弱, 該当せず)適当なものに○をつけて下さい。  
14 要項目の内容は調査票Aを参照して下さい。(記事は印刷の都合上横組み)

## □ 順位

× 日午後2時ごろ、東京都台東区上根岸町アパート〇〇荘2階無職金子さだえさん(25)の部屋からガスがもれているのに隣室の人が気付き坂本署に届け出た。

同署員がドアをこわしてはいったところ、さだえさんのほか男女2人がフトンの上で死んでいた。

調べでは、男は世田谷区玉川等々力、浅草大宝支配人小池寅年さん(40)、女は台東区象潟町無職早川節子さん(20)で小池さんの妻あてに遺書があり心中とわかった。

項 目	強 度			
ざ ん 新	1. 強	2. 中	3. 弱	0. 該当せず
意 外	1.	2.	3.	0.
生 命	1.	2.	3.	0.
生 活	1.	2.	3.	0.
季 節	1.	2.	3.	0.
大 衆 性	1.	2.	3.	0.
社 会 性	1.	2.	3.	0.
現 代 性	1.	2.	3.	0.
進 展 性	1.	2.	3.	0.
記 録 性	1.	2.	3.	0.
歴 史 性	1.	2.	3.	0.
国 際 性	1.	2.	3.	0.
地 域 性	1.	2.	3.	0.
時 間 性	1.	2.	3.	0.

適当な番号を○で囲む

## □ 順位

「根性教育だ」と生徒になぐる、けるの乱暴を働き、体罰の逆立ちをさせたりしていた横須賀市本坂中学教諭、大山清二(33)(休職中、同市田浦町)の暴力、日本刀不法所持の判決公判は、×日横浜地裁横須賀支部で開かれた。小野判事は「教育の名を信じた暴力」と懲役三月の判決を言い渡した。

## □ 順位

きのうから全国を襲った寒波は、けさ日本列島をふるえ上がらせた。

東京でも、都心で零下6度とこの冬最底を記録、郊外では井の頭で零下7.8度。このため水道管の破裂事故が続出、都水道局世田谷営業所管内の242件をトップに計2021件にのぼった。

気象庁では「西高東低の典型的な冬の気圧配置に全国がすっかり包まれているため、あと二日ぐらい寒さが続く」といっている。

## □ 順位

運輸省は日米通商百年祭のため、4月、同省航海訓練所の練習船「日本丸」(2,293トン)「海王丸」(2,283トン)の2船をニューヨークとサンフランシスコに派遣することを×日きめた。

万延元年日米通商条約批准のさい、初めて日本人だけで太平洋を横断した咸臨丸にちなみ、同じ帆船である二隻を航海実習生の訓練を兼ねて渡米させるもの。「日本丸」は138日、「海王丸」は99日間の航海。

---

□ 順位

〔コールブルック Ⅹ日＝AP〕Y日夜、南アフリカ連邦のクライスデール炭鉱で落盤事故が発生し、鉱内で作業中の200人が生き埋めになった。

地下約200メートルの坑道での事故で、生存者はほとんどいないと伝えられている。

---

□ 順位

Ⅹ日午後2時ごろ警視庁110番にグループ・サウンズ「アイドルズ」が出演しているB劇場に時限爆弾を仕掛けたという怪電話があった。劇場は約5000人のファンで満員だったのでC署の制私服警官50人がかけつけて調べたが、爆発もなく時限爆弾らしいものも発見できなかった。

ところが、同6時ごろ、同グループのリーダー丸山菱男さん(25)宅(世田谷区瀬田町)で突然爆発があり、ドアのガラス3枚がこわれた。丸山さんの家族は奥の部屋にいたので無事だった。

D署で調べたところ焼けこげたボール箱とガラスビンの破片が見つかり、この中に爆発物を仕掛けたい。C・D両署では同グループの人気をねたんだいやがらせではないかとみて調べている。

---

□ 順位

快晴の日曜、Ⅹ日、2千人の登山者でにぎわった谷川岳で転落事故4件があり、2人が死んだ。

同日午前11時ごろ八合目付近で神奈川県厚木市、会社員山道歩さん(28)と同市教員谷野花子さん(23)の2人は足をすべらせて40メートル転落。谷野さんは即死、山道さんは3ヶ月の重傷。二人は婚約記念の登山中だった。

また午後一時ごろ東都山岳会パーティー6人のうち千葉市会社員遠野太郎さん(21)は岩登り中に100メートル下の雪渓に転落して死んだ。さらに同2時半ごろ群馬県水上町工員山田一郎さん(21)は下山中に20メートル転落、3ヶ月の重傷を負った。

---

□ 順位

陸上自衛隊では防衛力強化を図るため、その1つとして戦車を充実させることになり、Ⅹ日試作日二両が完成した。

この戦車は重量35トン、主砲90ミリ1門、最高時速48キロと世界A級の性能をもっている。

ところが同日の検討会議で、日本全国の橋でこの重量を支えられるものはやっと4分の1程度。また車幅、車高も大きすぎて鉄道輸送は無理、道路を傷めずに走らせることもダメ。平時では置き物、万一の場合にも、四畳半でナギナタを振り回すようなものではないか、という批判が出た。一輛1億円、百合の計画に税金のムダ使いという声も起きている。

---

□ 順位

値上げラッシュ——。ガス料金改定も本決まりとなった。Ⅹ日の閣議で東京は11.5%、大阪は11.95%の値上げを最終決定、通産省は今週中に、東京、大阪ガス両社に正式許可する。

改定は来月一日からで、一立方メートル当たり東京は23円、大阪が24円となるが、東京ガス管内で一番多い月60立方メートル使用の家庭では約200円ハネ上がって1,580円となる。

政府は家計への影響はわずかと云っているが、他の物価へのハネ返りが心配されている。

---

□ 順位

Ⅹ日午前零時三十分ごろ、東京都中央区銀座三丁目バー「赤い星」から出火、折からの北風にあおられ隣接の食堂、パチンコ店など三むねを焼き、午前1時現在延焼中。

---

□ 順位

警視庁はⅩ日深夜、かねてから新宿駅地下街にたむろする「フーテン族」の一斉手入れ行をない、Ⅹ日午前零時現在男25人、女10を軽犯罪法違反で摘発した。これは明るい副都心をめざす警視庁の浄化第一弾。

---

☐ 順位

---

〔横浜〕首都圏の拡大で神奈川県下の人口は、このところふくらむ一方だが、×日現在横浜市の人口がついに、百万人を突破、この結果、兵庫県を抜いて東京、大阪、名古屋に次いで第4位にのし上がった。

---

☐ 順位

---

〔カトマンズ発 ×日 A P〕ヒマラヤの未踏峯○○ (7,821メートル) にいどんでいた城南大学山岳部遠征隊 (隊長 高井昇さん (32) から当地にはいった連絡によると、同隊の全員5人はY日同峰の登頂に成功した。

同峰は世界第8の高山で、この5年間に英、米など三か国の遠征隊が5度にわたり登頂しようとしていずれも失敗している。